

主 論 文 要 旨

報告番号	甲 ㊦ 第 号	氏 名	林 公 輔
<p>主 論 文 題 名</p> <p>Discrepancy in Psychological Attitudes Towards Living Donor Liver Transplantation Between Recipients and Donors (生体肝移植に対するレシピエントとドナーの心理的差異)</p>			
<p>(内容の要旨)</p> <p>脳死ドナーからの臓器提供がまだ少ない日本において、重度の肝障害に悩まされている患者にとって生体肝移植は無くしてはならない医療である。生体肝移植が行われる際にはレシピエントとドナーの相互理解が不可欠であるが、十分な検討がなされていないのが現状である。本研究の目的は、生体肝移植医療を受けたレシピエントおよびドナーの心理的相互作用を調査し、そこに存在している差異を明らかにすることである。</p> <p>1997年6月から2013年12月の期間に慶應義塾大学病院外科で生体肝移植を受け、2013年6月から2014年3月の間に同外科外来を受診したレシピエントとそのドナーに対して、移植に対する心理的な態度を評価する目的で作成した13項目からなる質問紙（7段階評価。1：強くそう思う、から、7：全くそう思わない）を実施した。同時に、レシピエントであればドナーの、ドナーであればレシピエントの答えを予測し回答してもらった。実際の回答と予測された回答との間にある差異を、対応のあるt検定を用いて解析した。</p> <p>57組のレシピエントとドナーのペアが研究に同意し、質問紙に回答した。ドナーの実際の回答とレシピエントの予測した回答との間には、13項目中7項目で有意差が認められた。例えば、ドナーはレシピエントが想像するほどにはドナーになって欲しいという周囲からの期待を感じていないことが明らかとなった（4.6 ± 1.9 vs. 3.4 ± 1.8, $P < 0.001$）。それに対して、レシピエントの実際の回答とドナーの予測した回答との間には13項目中1項目でのみ有意差を認めた。ドナーが想像するほどレシピエントは移植された肝臓を心配していないことが明らかとなった（3.1 ± 1.9 vs. 2.1 ± 0.8, $P = 0.001$）。</p> <p>本研究では、レシピエントとドナーの間に存在する心理的差異を明らかにした。ドナーがレシピエントの生体肝移植に対する気持ちをほぼ理解していると言えるのに対して、レシピエントはドナーの気持ちを十分には理解していないことが明らかとなった。ドナーが想像するほどレシピエントは移植された肝臓を心配していないという結果が出たが、ドナーはレシピエントに、移植された肝臓を十分にケアしてほしいと望んでいるのではないだろうか。生体肝移植医療の成功のためには、両者の精神状態をより良い状態に保つことが非常に重要である。本研究で明らかになった差異を埋めるための心理教育・心理的介入が、質の高い生体肝移植医療の実現のためには不可欠であると考えられる。</p>			